

G空間社会の未来

① 統合型G空間防災・減災システム

活用されるG空間技術

予防～被災状況の早期把握、避難支援～応急・復旧対策の全ての段階でG空間技術をフルに活用。



宙からの目で土砂崩れを検知!

現場急行! 災害情報の迅速提供

② 地球観測衛星

活用されるG空間技術

地球観測衛星を運用して地球規模で環境変化を捉え、関係機関へデータ提供、利活用を促進。



③ スマート農業

活用されるG空間技術

農機の自動走行やドローン・人工衛星のセンシングデータによる生育診断を普及。また、「eMAFF地図」の運用により農地情報・衛星画像等を活用した農地関連業務や経営を高度化。



ワタシガウケタガヤシマス

サクモツハジュンチョウニソダツテマス

③ スマート農業

デジタル技術によって生産効率の高い農業を実現し、農業の成長産業化と地域の活性化を推進。

自動運転車のなかでのんびりティータイム

⑤ 衛星データ利活用

活用されるG空間技術

海洋モニタリング、インフラ管理、防災・減災等に貢献できる衛星データを活用できる環境を、ニーズを踏まえながら整備。



⑥ 自動運転

活用されるG空間技術

自動運転に活用される交通環境情報等のデータ基盤の拡充及びデータ配信システムの構築を進めるとともに、車両等から収集したデータの連携・利活用の仕組みについて検討。



⑦ 空間 I D

活用されるG空間技術

実空間をボックス状に分割し、位置情報を統一した基準で一意に特定する「空間 I D」を含めたデジタルインフラを整備。



⑧ 3 D 都市モデル

活用されるG空間技術

都市空間そのものをサイバー空間上に再現する3D都市モデルを新たなデジタルインフラとして整備、活用。

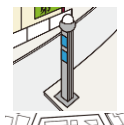


⑨ 位置情報の共通基盤「国家座標」

みんなの位置情報をおまといいただきます縁の下の力持ち

活用されるG空間技術

電子基準点網の運用、地殻変動による位置のずれを補正する仕組みの精度向上、高精度な標高データの整備を実施し、位置情報の共通基盤を整備。



⑩ 準天頂衛星システム

活用されるG空間技術

G空間社会の実現に不可欠な高精度位置情報・時刻情報を提供する社会基盤である準天頂衛星システムを開発、整備。



世界の温室効果ガスを観測!

② 地球観測衛星

地球観測等のための宇宙システムの整備・活用により、地球規模課題の解決やSDGsの達成に貢献。

あなたの正確な位置情報をお届けします。

⑩ 準天頂衛星システム

準天頂衛星システムのみで継続的に測位が可能になる7機体制確立を目指すとともに、サービス提供を着実に実施。

④ i-Construction

全ての建設生産プロセスでICT等の活用を推進し、建設現場の生産性を向上。

完成したビルの3次元データをメンテナンスにも活用!

⑦ 空間 I D

3次元情報や交通状況などのリアルタイム情報を効率的に利用できる基盤を整備し、多様なモビリティの高度な運航を実現。

私を基準にあなたの位置がわかります

いろんな乗り物集合! 空間を一緒にシェアする仕組み

産学官 みんなでめざす社会実装

⑧ 3 D 都市モデル

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進め、全体最適・市民参加型・機動的なまちづくりを実現。

豊かな暮らしの実現

地理空間情報基盤の継続的な整備・充実

自然災害・環境問題への対応

産業・経済の活性化

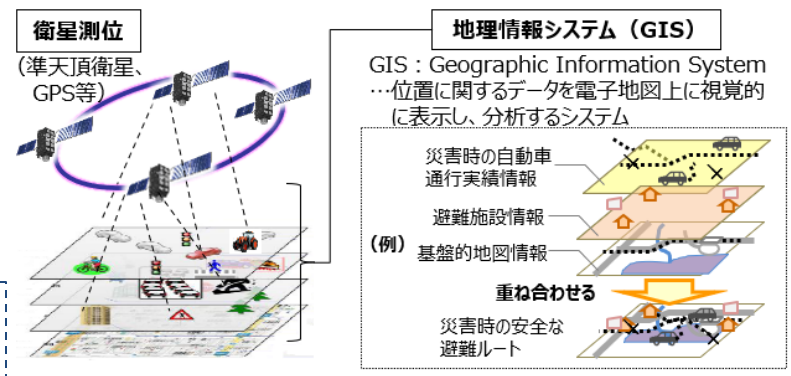


「G空間社会の未来」が実現する豊かなくらし

G空間社会とは、誰もが、いつでも、どこでも、必要なG空間情報を使うことができ、高度な分析に基づいた確かな情報を入手し、行動できる社会です。

G空間情報が高度に活用され、自然災害や環境問題への対応、産業・経済の活性化、豊かな暮らしの実現といった様々な社会課題の解決に貢献する社会の実現を目指しています。

- G空間情報とは？
- ・「位置」と「時間」、その関連情報から形成される情報です。
 - ・「いつ・どこで・何が起きているか」を正確に把握し、電子地図上に多様なデータを重ね合わせて視覚化したり分析したりすることで、新しいサービスや産業の創出が見込まれています。



「G空間社会の未来」の実現にむけた取組

地理空間情報活用推進基本法 …G空間情報を活用して豊かな生活の実現を目指すための法律

地理空間情報活用推進基本計画 …G空間社会の実現に向けた具体的な施策を定めた計画 (第4期計画 (計画期間：令和4～8年度) を令和4年3月に閣議決定)

目指すべき姿
・誰もがいつでもどこでも自分らしい生き方を享受できる社会の実現に向けて、**地理空間情報のポテンシャルを最大限に活用した多様なサービスの創出・提供の実現**を目指します。

全体指針

地理空間情報活用の新たな展開

- **Dynamic(動的)・Realtime・Open・Connectedな進化したデータ**を未来予測等に活用
- 社会課題を解決する次世代インフラとして、発信・展開

地理空間情報活用ビジネスの持続的発展パイラル構築

- **新産業・新サービスの創出**のため、産学官の多様なプレーヤーの協業等を促進
- 継続性を有するビジネスへの発展パイラルを構築

地理空間情報活用人材の育成、交流支援

- 異分野を巻き込んだ多様な人材の交流、事業化を推進するコミュニティの形成等を促進
- 進化した地理空間情報を活用する人材を育成

取り組むべき分野と主な施策

- 世界最高水準の「G空間社会」の実現に向け、5つの分野ごとに整理した約130の取組を推進。
- 特に重点的に取り組むべき施策「シンボルプロジェクト」に10施策を位置付け、強力に推進。

(1) 自然災害・環境問題への対応		(2) 産業・経済の活性化		
① 統合型G空間防災・減災システムの構築の推進	② 地球観測衛星による気候変動等の地球規模課題解決への貢献	③ スマート農業の加速化などデジタル技術の利活用の推進	④ i-Constructionの推進による3次元データの利活用の促進	⑤ 衛星データ利活用促進事業
(3) 豊かな暮らしの実現		(4) 地理空間情報基盤の継続的な整備・充実		
⑥ 自動運転システムの開発・普及の促進	⑦ 「空間ID」を含む3次元空間情報基盤の整備	⑧ 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト	⑨ 高精度測位時代に不可欠な位置情報の共通基盤「国家座標」の推進	⑩ 準天頂衛星システムの開発・整備及び測位能力向上の推進
(5) 地理空間情報の整備と活用を促進するための総合的な施策 (産学官等連携会議、G空間EXPO、G空間情報に関するコンペティション等)				

※計画の効果的な推進 ⇒ DX推進の取組との連携、G空間情報の秩序ある流通・利活用 (国の安全への配慮等)、計画のフォローアップ等